

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中学生の部

奥の細道
むすびの地
大垣



令和六年二月度 入賞句一覧

投句数 千五百六十七句

特選

長町 誠司 選

なんだこれすごいふくろにお年玉

大垣市

ほりべ つむぎ(小三)

作者は小学三年生。お年玉をもらった時の驚きが、読者にダイレクトに伝わります。俳句は、読者にあれこれ想像させることも大事なポイントの一つです。この「すごいふくろ」という表現は、作者の素直な気持ちから自然に口をついて出たもので、作詞的なものは感じられません。いつか会う機会があれば、どんな袋だったのか見せてほしいなあと思います。選をしていて自然と頬が緩みました。

雪がふり守りを固める関ヶ原

大垣市

矢野 斗真(小四)

関ヶ原は、徳川家康の東軍と石田三成の西軍が相まみえた有名な古戦場であるだけでなく、豪雪地帯ということでも知られています。その特色を生かし、上手く俳句を作りましたね。地名を俳句に入れることの難しさは、芭蕉の弟子の去来(きよらい)という人物が書いた「去来抄」という本に、その道筋が示されています。季語と地名、それをつなぐ表現力に強く惹かれました。

卒業の気持ち切り撮り保存する

加茂郡川辺町

三品 明日香(中三)

感動を十七音で切り取る俳句と、被写体をどう切り撮るかという写真には、共通するところがあります。どちらも一瞬を閉じ込めただけに、あとで作品を見た時、その日の感情がありありとよみがえってくるからです。作者は、卒業時の自分の気持ちを、深く胸の中に保存しました。不安や希望が入り混じる卒業期。そんな「卒業」という季語の本意から、作者の決意のようなものを感じました。

秀逸

風がふき君という名の春が来た

加茂郡川辺町

横田 弥那人(中二)

桜咲くカバンにつめた夢の歌

加茂郡川辺町

大杉 ひより(中二)

卒業かあとこれ何回言えるかな

加茂郡川辺町

堀井 咲来(中三)

ふうつとね白いきはく雪だるま

大垣市

柳瀬 才嬉(小四)

ゆきがふりかまくらづくり父だけに

大垣市

日比野 さくら(小二)

大雪で丸みを帯びた庭の岩

大垣市

渡部 美響(小五)

ラーメンを三回ふうしてあかいほお

大垣市

いで のあ(小二)

たんぼぼはまるで私の六年間

大垣市

安藤 稟乃(小六)

杭瀬川桜の中を流れゆく

大垣市

藤田 向茉莉(小六)

冬蝶は白にとけてどこ行くの

加茂郡川辺町

野田 美樹葉(中二)

入選

小中学生の部

みみもとにぴゅつとつぶやく春の風	大垣市	柳瀬 才嬉（小四）
おいしそうな大きな口で雪をまつ	大垣市	日比野 さくら（小二）
三年間見守ってくれた桜の木	加茂郡川辺町	佐藤 柊我（中三）
犬みたい弟雪にねころがる	大垣市	笹田 琉来（小六）
午前二時かすみの空をながめてる	加茂郡川辺町	丹羽 涼香（中三）
おとうとがおにのおめでないちやった	大垣市	蓮見 凜（小三）
なんでだろうしやしんがブレたしちごさん	大垣市	棚橋 一稀（小三）
えいがみてかんどうしすぎじよやのかね	大垣市	多和田 万里奈（中三）
げこうちゆうにおいのしようたいおちばたき	大垣市	ねもと りょうせい（小三）
お年玉あと八年はもらいたい	大垣市	清水 ちとせ（小六）
ゆきだるまゆきといっしよにかくれんぼ	大垣市	ひらさわ えいと（小二）
雪がつせん空をめざしてなげようよ	大垣市	折戸 惺奏（小二）
轉りがアラームとなり僕起こす	加茂郡川辺町	大久保 馨（中三）
春の星今日はなんだかよく見える	大垣市	亀田 哲平（小三）
入学だ次の年に行ってきます	大垣市	渡部 美柚（小三）
ふきのとうやつとみえたね春の空	大垣市	田端 凌征（小三）
冬の朝いつもとちがう通学路	大垣市	伊藤 晟冴（小五）
あおぞらにハートがうかぶさくらかな	大垣市	竹村 すいさ（小二）
見せたいのほんとはわたしダンスすぎ	大垣市	西さか えみり（小二）
さくらさくいちねんせいをむかえよう	大垣市	かわい たかし（小二）

選者吟

距離おいて咲け白梅も紅梅も

誠 司

